

古河大使 樋口真嗣さん作品年表(一部)



針谷市長  
×  
古河大使 樋口真嗣さん



8ミリフィルムでの撮影が私の原点  
デジタル化が進み表現の幅が広がることで可能性も広がる

古河のロケーションを活かして

市長…1996年の『ガメラ2 レギオンの襲来』では、古河市がロケ地として使われていましたが、映画のロケ地として古河の立地はいかがですか。  
樋口…ガメラの時は名崎送信所などでロケをしました。先日、久しぶりに送信所の周辺を通ってみたのですが、雰囲気のあるお茶屋さんや古民家があって撮影場所がいいなと思いました。  
ふるさとの森も山奥の設定で撮影できるのですごくいいと思いますよ。また、渡良瀬遊水地のヨシ焼きを撮影して、合成素材として使用しています。CGでは得られない本物の迫力がいいんです。

最近映画の撮影も日帰りで行ける場所を選ぶことが多いので、東京からアクセスしやすい古河はいい環境といえます。  
市長…最近映画を編集して投稿することが身近になってきました。動画の撮影や編集に興味のある子どもたちにアドバイスをいただけますか。  
樋口…私も高校時代は、8ミリフィルムでよく撮影していました。今日の対談の様子を撮ってくれた三高生が使っているカメラやスマートフォンは私の撮影現場でも使っています。手軽な機材だからこそ得られる独特な画もあり、映画だからといって、高価な機材ばかりを使っているわけではないですよ。

今は、スマートフォンなどで手軽に動画を撮れるので、表現の幅は広がっていて、多くの可能性を秘めていると思います。何度でも挑戦できる時代だからこそ新しいものを生み出してほしいです。  
市長…人生でも同じかもしれませんが、デジタルの何度でもやり直しができる良さも、アナログの一発勝負のような緊張感を持って挑戦する気持ちも大切だと思う。  
いろいろな選択肢があるからこそ、これからの子どもたちには、一つ一つの物事をしっかり考えて何度も挑戦する気持ちを忘れずに、樋口さんのように大いに活躍してほしいですね。

偉大な先輩を目指して！  
古河三高の生徒が動画を制作

針谷市長・樋口大使の母校である古河第三高等学校生徒会の生徒たちが対談の様子を撮影し、ショートムービーを制作しました。

【動画撮影を通して】

恐ろしい怪獣を相手に仕事をしている樋口監督ですが、実際にお会いすると優しく熱意のある方でした。監督の「映像」に対する熱意を動画で伝えられるように制作しました。



▲動画を制作をした古河第三高等学校の生徒たち



動画は  
こちらから